

香道関係資料

香道は、現在、三条西実隆を祖とする御家流と、志野宗信を祖とする志野流の二流派に大別される。御家流は、「高貴の香」をめざす公家風を尊び、これに対して志野流は、志野宗信が基礎を築き、子宗温・その子省巴の三代によって完成されたといわれ、武家風である。

香道資料である伝書は、志野流系統が御家流より数多く存在し、本学の香道伝書も大半が志野流香道伝書である。

今回は、本学常磐松文庫の香道関係資料を展示する。

- 1 香伝書 志野流 (常磐松文庫)
一箱一括写 [文化期頃] (1804~1818)
この叢書の内訳は、「香道伝授之次第 扣(蜂谷貞重自筆)・伝授之次第・香道伝授目録 覚・蜂谷貞重書簡(白筆 手塚太郎兵宛)一通・聞書一通・炭団之法(文化十一年貞重伝授)・覚書四通・連理(慶長十二年(1607)蜂谷宗因 [藤野春淳] 奥書)・畳紙寸法手本・古法十炷香包並銀葉包 二・作銘御香量・香銘短冊二枚(文化十二、十三年)・雪の札十枚・同折居一・手記録 用紙十三枚・認扣三枚・小草香の記色紙二枚・十炷香の記短冊二枚・その他包紙二枚」。
蜂谷貞重は、独慎斎・常足庵と号す。藤野春淳の弟。文政九年(1826)十一月四日没す。
「連理」に病氣中の為、藤野春淳が代行して伝授したと書かれた蜂谷宗因は、同年九月二十四日没。
- 2 [香伝書] 秘書 志野流 (常磐松文庫)
写一枚 年月不明 「慈照院同朋香道の祖 志野三郎左衛門宗信直書」 香炉の灰押し方 箱入
志野流の祖 志野宗信は嘉吉元年(1441)に生まれ。志野三郎左衛門宗信と称し、花香舎・松徳軒と号す。大永三年(1523)八月、八十二才で没す。
- 3 香道蘭の園 [志野流] (常磐松文庫)
写本十冊 美濃判 十行書き 彩色図入 伝授奥書(延宝五年(1677)鈴鹿周斎より山下弘永。宝永七年(1710)山下弘永より栗本穩置。享保十八年(1733)栗本穩置より菊岡寄邦 伝写)
第七巻 粗香には、文龜元年(1501)五月 志野宗信宅興行(名香会)の記事がある。
この「香道蘭の園」には、人々が香を聞きあて、盤上の飾り物の駒をすすめる競香、つまり盤物といわれる遊戯が数多く収録されている。

- 4 後小松院御薫物書 志野流 (常磐松文庫)
写本一冊 中本 享和二年(1802)蜂谷貞重奥書 内題なし
薫物とは、沈・白檀などの香を練り合わせた練香。
- 5 十炷香記 志野流 (常磐松文庫)
写本一卷 18.2cm 奥書なし [江戸初期写]
源平香は、寛永の頃廃止になり、旗香にかわったという。それが記録されていることは、少なくとも慶長・元和頃までの写本であろう。
- 6 志野流香道伝書目録 (常磐松文庫)
写本一冊 美濃半裁判 奥書なし 内題「目録」
志野流香道の儀礼項目を集めた目録。
- 7 [名香録] [志野流] (常磐松文庫)
写本二冊 中本 五行書き 奥書なし 内題・表題なし 帙題「三種名香」
いろは順に香銘を排列し、解説したもの。
- 8 増補名香録 [志野流] (常磐松文庫)
写本二冊 美濃判 五行書き 文化十五年(1818)蜂谷貞重奥書 内題なし
初巻表題なし
[名香録]に増補したもの。
- 9 香鑑 志野流 (常磐松文庫)
写本一冊(六巻) 中本 図式 「弘治元年(1555)宗信以下五名連署」
伝写奥書なし
- 10 香図 志野流 (常磐松文庫)
写本一冊 樹形本 綴葉装 十五行書き 奥書なし
- 11 [薫物方](たきものほう) (常磐松文庫)
写本一卷 17.3cm 天正十四年(1586)奥書 署名なし 内題・表題なし
香銘の香料配分を明示したもの。
- 12 香一流根源 (常磐松文庫)
写本一卷 17.2cm 絵図入 奥書「天正第六曆(1678)夏正中旬玖山老翁」 表題なし